

医学部 (保健学科)

School of Medicine



幅広い知識と技能、豊かな人間性を備え、 チーム医療の中で活躍できる 医療職者の育成を目指しています

少子高齢化が進む我が国において、人々の健康の維持・増進、疾病の予防のほか、障がい者の社会復帰やノーマライゼーションは、今後ますます重要課題になっていきます。さらに看護師、臨床検査技師、理学療法士や作業療法士など医療専門職者が果たす役割や活動フィールドは拡大傾向にあります。こうした医療福祉環境の中で、人間の健康と幸福を求め、福祉の向上に寄与・貢献する高度な専門技術を備えた人材を育成していきます。

学部の特徴

- 1 医学・医療・保健に関する幅広い知識と高度な専門技術とともに、豊かな人間性や倫理性も求められており、総合大学の利点を活かした教養教育にも大きな比重を置いています。
- 2 学生約160人に対して、60人を超える教員の人数。1つの学部にも匹敵する規模と陣容を誇り、国内でもトップクラスの教育機関といえる充実した体制を整えています。
- 3 大学院保健学研究科も設置され、高度な知識と技術を持った高度医療専門職や包括的かつ国際的な視野を備えた研究者の養成まで一貫して行うことが可能となっています。

保健学科

医療・保健・福祉を通して、 人類の幸福と社会福祉に貢献

保健学は、心身の健康と疾病や障害に関する教育と研究を通して、人類の幸福と社会福祉の向上に寄与する実践的学問です。近年、医学およびこれに関連する科学は目覚ましい発展を遂げており、医学・医療のあらゆる分野において新しい技術が次々に開発されています。また、我が国は世界でも有数の超高齢社会を迎えており、これに対応した医療・保健・福祉などの制度改革が求められています。看護学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻及び作業療法学専攻を擁する保健学科では、このような社会の要請に応えるために、健康の維持・増進、疾病や障害の予防、患者のケア、病因・病態の解析や検査・診断技術、心身機能の回復、代償、補完などに関する教育と研究を通して、最新の保健・医療を支える有能な人材育成に取り組んでいます。

学位授与に関する方針

教育課程を通じて授与する学位に関して、国際的にも卓越した教育を保障するため、以下に示した2つの方針に従って学士の学位を授与します。

- 保健学科に所定の期間在学し、それぞれの専攻が定める卒業に必要な単位を修得する。
- 卒業までに、医学部保健学科学生がそれぞれの課程を通じて達成を目指す学習目標は次のとおりとする。

「人間性と倫理性」

豊かな人間性と保健医療における高い倫理性を身につける。

「創造性」

旺盛な探究心と創造力に加えて、課題を設定し解決できる能力を有する。

「地域性・国際性」

多様な価値観を尊重し、地域社会へ貢献するとともに国際的に活躍できるための基礎的能力を有する。

「専門性と協働」

医療の基礎学力と高度な専門知識を習得した専門職として、保健医療福祉チームにおいて協働できる。

看護学専攻

看護学は、あらゆる「ひと」の「Life/生きること」の質を向上するため、人間の尊厳と権利を尊重し、ひとの「生命・生活・人生」と、共に影響しあう「環境」、それらすべてを対象として包括的にとらえ、支援するための実践科学です。

本学では、人間の尊厳と権利を重視する看護専門職の基盤となる人間性、倫理性、創造性、専門性を育成するために、ケアリングを軸として、経験学習を重視した、卓越した看護学教育を提供いたします。さらに、地域性・国際性及び多職種協働(inter-professional work: IPW)の能力を培うために、保健学並びに関連諸学問についての教育を提供します。そして、卓越した資質・力量を備えた看護専門職者を育成し、保健医療福祉などの幅広い分野の実践・教育・研究において活躍し、地域・国際社会への貢献ができる人材の育成を目指します。

検査技術科学専攻

近年の医学および医療の分野における革新と発展には、優れた臨床検査技術の開発と応用が大きく寄与してきました。病気の早期発見、診断および治療や健康状態の把握に必要な臨床検査は、今やまさに医療の中核的役割を担う1つの分野として位置づけられ、チーム医療においても中心的な立場に立っています。さらには、治療薬、診断薬や医療機器の研究開発分野においても貢献の場を広げています。臨床検査技術がこのように高度になって役割を広げ、医学・医療の向上に寄与するための重要な責務を負うようになった現在、その人材を養成する国立大学においては、より高度な基礎・専門知識および技術と研究開発能力を獲得させる教育が必要です。検査技術科学専攻では、生体情報を科学的に解釈し、それを診療へ最大限に提供できる能力だけでなく、医療人としての自覚と倫理観を備えた人間性豊かな臨床検査技師、さらに臨床検査学・医学を中心とする分野の第一線で活躍しうる研究・教育者を育成することを目指しています。

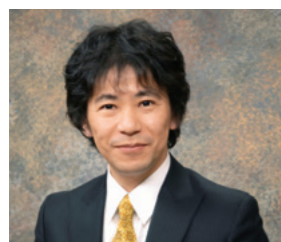
理学療法学専攻

超高齢社会、疾病構造の変化、さらに障がい者の社会復帰や福祉向上は、リハビリテーション医学における機能回復をひとつの医学領域と位置付け、重要な役割を担うものとして社会が要請するようになりました。理学療法は、物理療法や運動療法によって身体の機能回復を図るもので、他のすべての医療分野と直結しています。そのために、近年のチーム医療では医師及び看護師等の医療スタッフとの密接な連携と相互の協働が必要となります。さらに理学療法学の分野では医療における重要な役割と高度な技術への対応が要請され、高等教育による人材の育成が必要となってきました。一方、高等教育における養成機関は少なく、医学及び医療の変化に必ずしも対応できていないと思われます。理学療法学専攻においては、理学療法の基本を学び、身体機能や能力を評価・分析し、最善・最新の理学療法を提供できる能力を養います。さらに科学的視点から思考する能力を養いながら、将来、科学的根拠に基づいた効果的な理学療法を実践し、創造できる専門家の育成を使命としています。

作業療法学専攻

我が国の医療・保健・福祉施策は、世界の情勢に伴って、個々の人権の尊重と地域支援という方向に変化しています。作業療法士は、これらの分野において活躍が期待されています。その主な役割は、医学の知識を十分に有したうえで、対象者のもつ作業特性を理解し、環境や個人因子を配慮した治療技術と支援を提供することです。作業療法士に要請されることは、対象者の病期に応じた機能障害の回復、生活手段の獲得、社会復帰への支援などの作業療法技術です。さらには、対象者に関わる多職種との優れたコーディネート能力も重要です。作業療法学専攻では、身体や精神に障がいのある子どもや成人、高齢者に対してさまざまな作業活動を提供することで、その人が持っている、もしくは望まれる身体的・精神的機能を最大限に発揮できるようにするため、その方法を学ぶだけでなく分析・応用能力を磨き、対象者のあらゆるニーズに対応できる能力を養います。

教員メッセージ



保健学科 教授
法橋 尚宏

看護学の視野を広げ、知見を深める

看護学には、基礎看護学、家族看護学、小児看護学、成人看護学、高齢者看護学、精神看護学、母性看護学、助産学、地域看護学、在宅看護学、国際看護学、災害看護学、感染症看護学など、多くの分野があります。看護の対象となるひとには、それぞれに家族が存在します。家族は“第二の患者”であり、家族メンバーが病氣、障がい、失業、災害などを被ったときに苦悩を抱くのはもちろんですが、その他の家族メンバーも同程度あるいはそれ以上の苦悩を抱くこととなります。したがって、家族全体を対象とする家族看護学が看護学の基盤となるのです。私は、家族看護学という新しい学問の創設に携わり、世界のフロントランナーです。私のゼミで

は、入院・在宅療育中の病児・障がい児をもつ家族、高齢者を介護している家族などを対象とし、エビデンスである看護理論に裏づけされた治療的支援の構築を中心テーマとしています。国内では島嶼部、山間部など、海外ではインドネシア、フィリピン、中国本土・香港、ロサンゼルスなども、私の研究と実践の場です。さらに、大学院では、ケアとケアを統合し、卓越した家族看護を提供する家族支援専門看護師(CNS)を養成しています。これは、神戸大学を含めて5つの大学でしか養成していません。私は、学生と教育者が共に育み、共に育つ“学生共育”を大切にしています。新しいことに挑戦し続けることにやりがいを感じています。

学生メッセージ

仲間と共に 成長できる場所

保健学科
理学療法学専攻
4年
田平 涼裕



保健学科には4つの専攻があり、合同の実習を通して、チーム医療の大切さや各専攻の専門性について理解を深めることができます。また、理学療法学専攻は少人数制であり、同級生同士の横の繋がりが、先輩・後輩との縦の繋がりが、先生方との繋がりが非常に強いです。大変な試験や実習に対しても、みんなで力を合わせて乗り越えていきます。向上心の高い仲間達に囲まれて、自分を高めることができる環境だと思っています。キャンパスは離れていますが、本学の部活やサークルに所属している人も多くいます。勉強と両立しながら、充実した大学生活を送る事ができると思います。

卒業生メッセージ

将来性を高める 強いつながり

保健学科
理学療法学専攻
2020年3月卒
神戸大学大学院
保健学研究科
佐伯 謙太



医療従事者の勤務先として真っ先にイメージするのは病院かもしれませんが、それ以外にも施設や企業、大学院、研究所、行政など多岐にわたります。神戸大学の保健学科は少人数なので、同期はもちろんのこと、先生方や先輩方とのつながりもとても強いのが特徴です。様々な分野で活躍されている先生方や先輩方と深く関わることができるため、視野が広がり、将来の選択肢が大きく広がります。何でも出来て何にでもなれる可能性を秘めた大学生活、神戸大学の保健学科で将来性をさらに高めてみてはいかがでしょうか。